

2024年度インターゼミ
多摩学班 箱根合宿



団地から発信する

外国人との共生

学部生：片沼 来夢・河端 南・趙 彦明・王 奕棋・野上 隆之介・張 逸承

学院生：池内 晋史

指導教員：水盛 涼一・杵渕 洋美・荻野 博司

目次

1. 研究背景

2. 問題意識

3. 研究目的・方法論

4. ヒアリング(芝園団地)

5. 訪問(江戸川インド人会)

6. 今後の予定



1.研究背景

少子高齢化

労働力の
減少

外国人の
労働力

在日外国人
の増加

受入体制の
準備不足

①多摩ニュータウンにおける急速な高齢化

➡居住者の老後の生活を充実させる高齢社会工学の構築

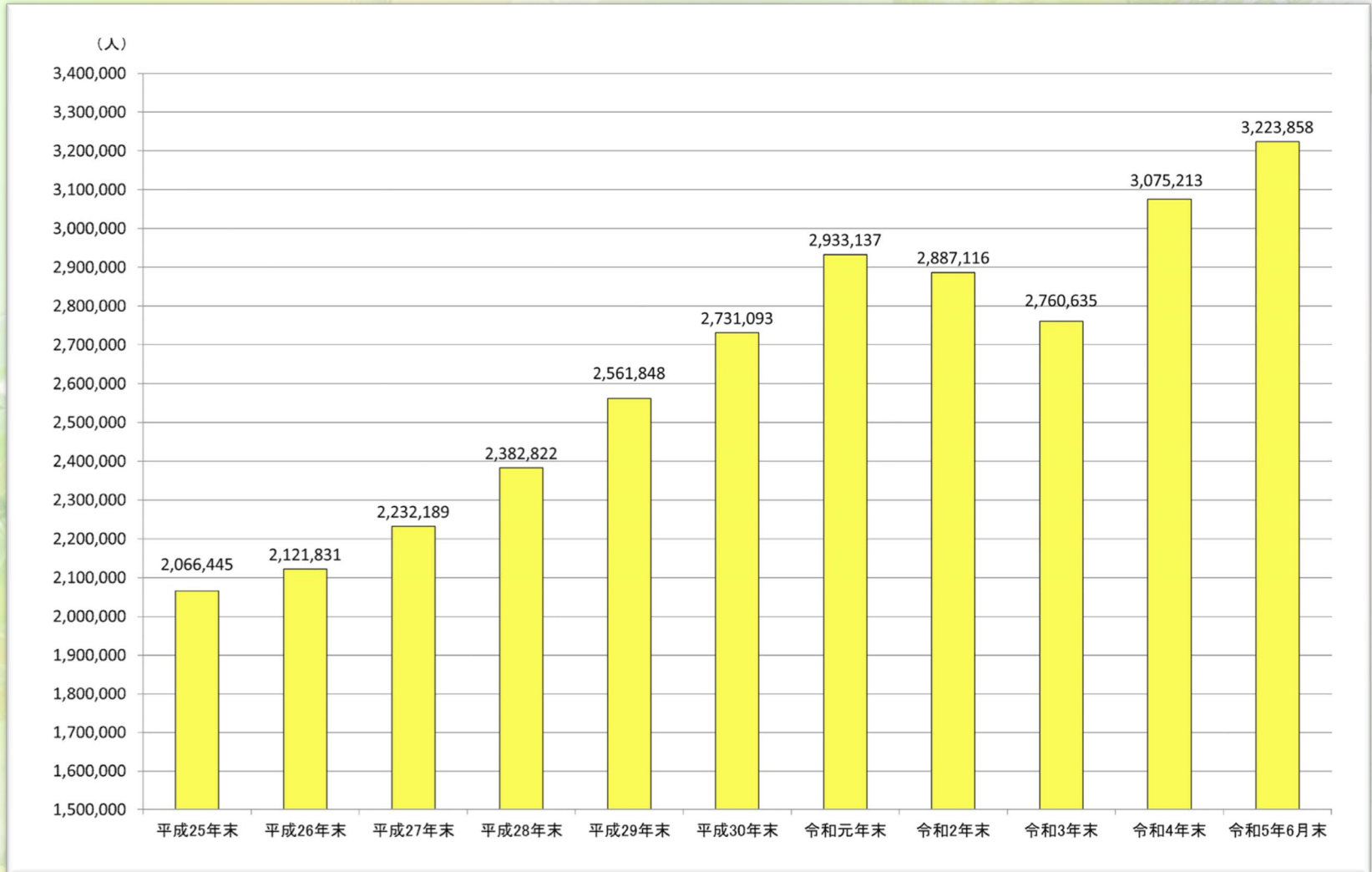
②我が国の生産年齢人口の減少

➡諸外国と比較した外国人労働者の受入れ対策

③日本人と在日外国人との共生

➡外国人集積団地の実態と、住みやすい地域づくり

2.問題意識 在日外国人の推移（総数）



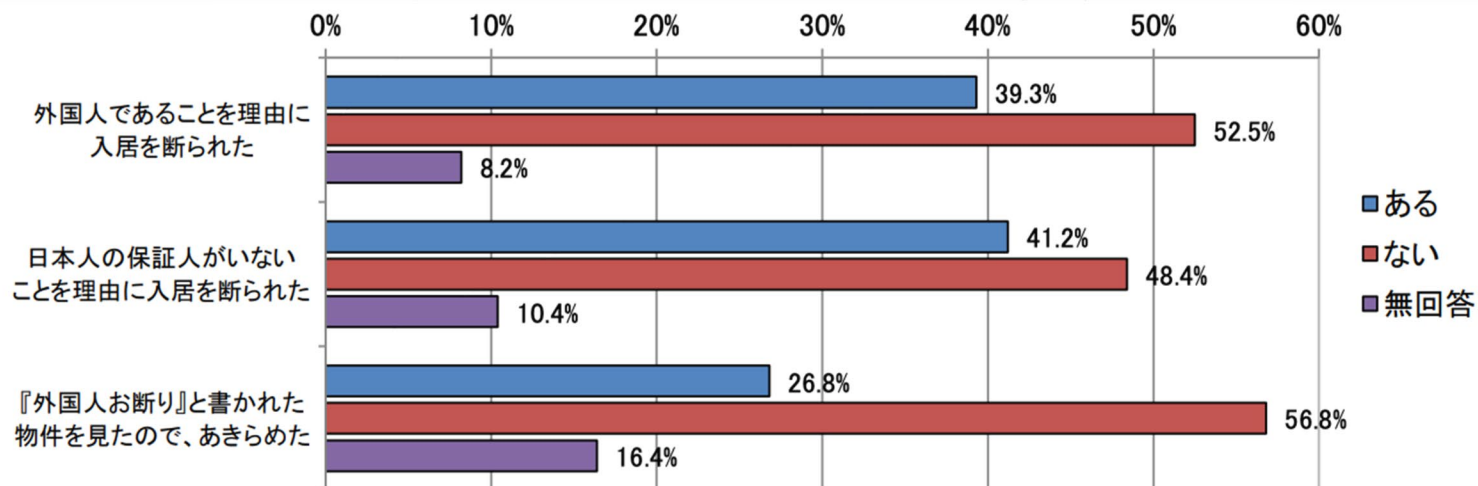
出所:出入国在留管理庁「令和5年6月末現在における在留外国人数について」(2023年10月)⁴

2.問題意識

在日外国人が受ける入居差別

n=2044

	ある(割合)	ない(割合)	無回答 (割合)	合計(割合)
外国人であることを理由に入居を断られた	804 (39.3%)	1073 (52.5%)	167 (8.2%)	2044 (100.0%)
日本人の保証人がいないことを理由に入居を断られた	843 (41.2%)	989 (48.4%)	212 (10.4%)	2044 (100.0%)
『外国人お断り』と書かれた物件を見たので、あきらめた	548 (26.8%)	1160 (56.8%)	336 (16.4%)	2044 (100.0%)



2.問題意識 国道16号線沿いの団地



3.研究目的・方法論

研究目的

- ・「外国人団地」では、日本人高齢者と在日外国人が互いの文化、宗教等の違いを踏まえ、「共生」を目指している。（例、芝園団地、いちよう団地、大島団地）
- ・本研究では、様々な「外国人団地」の「共生」を目指す紆余曲折、取り組み、今後の課題をモデルに広域多摩へのアプローチ方法を考察する。

研究方法

- ・文献調査とフィールドワーク、関係者へのヒアリング調査
- ・6月29日芝園団地 現地調査

4.ヒアリング 芝園団地（概要）

・芝園団地(6月29日ヒアリング)

- 住所：川口市芝園町
 - 居住者比率：日本人約 4 5 % 外国人約 5 5 %
 - 主な国籍：中国
- ・ 自治会役員である **大島隆**さん、**楊思維**さんにヒアリングを行った。



4.ヒアリング 芝園団地



4.ヒアリング 芝園団地（取り組み）

- ① 伝える（Communicate）： 2－3か国語での掲示
→不要な対立を軽減
- ② 知る（Learn）： 日没後も公園で遊ぶのは「非常識」
→外国人新入居者への「芝園ガイド」配布
- ③ 触れる（Contact）： 架け橋プロジェクト
→多文化、他世代の交流促進

4.ヒアリング 芝園団地（現状と課題）

- 中国人のピークアウト、ベトナム人の増加
- 新しく入る独居老人のつながりが無い
- 一つの団地でのコミュニティの分断
- 夏祭りは、高齢の日本人が運営を行うが、参加するのは中国人が多い

4. 芝園団地（8/18 芝園ふるさと祭り）



大島隆氏撮影



4.江戸川インド人会



4.江戸川インド人会（概要）

～ フロンティア精神から生まれた、 インド人のためのボランティア団体～

- 1998年江戸川区、西葛西駅にて設立された江戸川インド人会は、現在 Jagmohan Swamidas Chandraniさんが会長を務めている
- 芝園団地と西葛西の違いとして、芝園団地は日本人が住んでいたところに、中国人などの外国人が増えてきたが、西葛西はインド人が多く滞在しているところに、日本人が増えたため混在していることが分かる

4.江戸川インド人会（報告）

チャンドラニ

（Jagmohan Swamidas Chandrani）さんの概要

1978年にインドの紅茶ビジネスを行うため来日した

1979年に西葛西に引っ越す

同年西葛西駅が開業した

コスモポリタンな人を街を創っていきたい

2000年問題を解決するために、当時インドから多くのIT関連の技術者が来日した

5.今後の予定



6.参考文献

- ・ 大島隆『芝園団地に住んでいます—住民の半分が外国人になったとき何が起きるか』（明石書店、2019年10月）
- ・ 寺島実郎総監修、中庭光彦共編著、松本祐一・荻野博司著『多摩学への試み 多摩地域研究』（多摩大学出版会、2024年4月）
- ・ 室橋裕和『ルポ コロナ禍の移民たち』（明石書店、2021年12月）
- ・ 室橋裕和『カレー移民の謎—日本を制覇する「インネパ」』（集英社、2024年3月）
- ・ 山谷剛史『移民時代の異国飯』（星海社、2022年4月）
- ・ 安田峰俊『「低度」外国人材—移民焼き畑国家、日本』KADOKAWA、2021年3月）
- ・ 人権教育啓発推進センター『外国人住民調査報告書（訂正版）』（法務省委託調査研究事業、2017年6月）
- ・ 渡辺恵司（大島地区町会連合町会会長）「在留外国人との多文化交流、今出来る街づくり」（公益財団法人さわやか福祉財団、2021年11月、<https://www.sawayakazaidan.or.jp/idea/>）

6.参考文献

- 未読文献 ……
- Herausgegeben von Klaus J. BADE, Enzyklopädie Migration in Europa: vom 17. Jahrhundert bis zur Gegenwart, Wilhelm Fink 2007. (前田直子・藤井欣子・鈴木珠美訳『移民のヨーロッパ史—ドイツ・オーストリア・スイス』東京外国語大学出版会、2021年9月)
- Rogers BRUBAKER著 (佐藤成基・高橋誠一・岩城邦義・吉田公記の編訳) 『グローバル化する世界と「帰属の政治」—移民・シティズンシップ・国民国家』(明石書店、2016年10月)
- Christiane HARZIG and Dirk HOERDER with Donna Rae GABACCIA, What is migration history?, Polity, 2009. (大井由紀訳『移民の歴史』筑摩書房、2023年12月)
- François HÉRAN, Avec l'immigration: mesurer, débattre, agir. Éditions Paris: La Découverte, 2017. (林昌宏訳『移民とともに—計測・討論・行動するための人口統計学』白水社、2019年4月)
- Alejandro PORTES and Rubén G. RUMBAUT, Legacies : the story of the immigrant second generation, University of California Press, 2001. (村井忠政など訳『現代アメリカ移民第二世代の研究—移民排斥と同化主義に代わる「第三の道」』世界人権問題叢書86、明石書店、2014年1月)
- Catherine Wihtol de WENDEN cartographe Madeleine Benoit-Guyod, Atlas des migrations : une équilibre mondial à inventer, Autrement 2005. Cinquième édition, 2018. (太田佐絵子訳『地図とデータで見る移民の世界ハンドブック』原書房、2019年6月)
- ヤマグチ・アナ・エリーザ (YAMAGUCHI Ana Elisa) 『変容する在日ブラジル人の家族構成と移動形態—分散型／集住型移住コミュニティの比較研究』(世織書房、2021年11月)
- NHK取材班『データでよみとく外国人“依存”ニッポン』(光文社新書1033、光文社、2019年10月)
- 移民政策学会設立10周年記念論集刊行委員会編『移民政策のフロンティア—日本の歩みと課題を問い直す』(明石書店、2018年3月)
- 石田光規編著『郊外社会の分断と再編—つくられたまち・多摩ニュータウンのその後』(晃洋書房、2018年4月)
- 江口隆裕『移民政策と国民—アメリカ・フランスの同化主義か、シンガポールの多文化主義か』(神奈川大学出版会、2021年5月)
- 小熊英二『単一民族神話の起源—「日本人」の自画像の系譜』(新曜社、1995年7月)
- 小熊英二『「日本人」の境界—沖縄・アイヌ・台湾・朝鮮植民地支配から復帰運動まで』(新曜社、1998年7月)
- 小内透編著『在日ブラジル人の労働と生活』(「講座トランスナショナルな移動と定住—定住化する在日ブラジル人と地域社会」第1巻、御茶の水書房、2009年12月)
- 小内透編著『在日ブラジル人の教育と保育の変容』(「講座トランスナショナルな移動と定住—定住化する在日ブラジル人と地域社会」第2巻、御茶の水書房、2009年12月)
- 小内透編著『ブラジルにおけるデカセギの影響』(「講座トランスナショナルな移動と定住—定住化する在日ブラジル人と地域社会」第3巻、御茶の水書房、2009年12月)
- 大島隆『「断絶」のアメリカ、その境界線に住む—ペンシルベニア州ヨークからの報告』(朝日新聞出版、2022年10月)

6.参考文献

- 未読文献 ……
- 岡内大三『香川にモスクができるまで—在日ムスリム奮闘記』（晶文社、2023年1月）
- 岡崎広樹『外国人集住団地—日本人高齢者と外国人の若者の“ゆるやかな共生”』（育鵬社、2022年7月）
- 岡村圭子『団地へのまなざし—ローカル・ネットワークの構築に向けて』（新泉社、2020年1月）
- 加藤丈太郎『日本の「非正規移民」—「不法性」はいかにつくられ、維持されるか』（明石書店、2022年3月）
- 角野幸博編著、青木嵩・岡絵理子・伊丹康二・水野優子・松根辰一・坂田清三『鉄道と郊外—駅と沿線からの郊外再生』（鹿島出版会、2021年8月）
- 金子淳『ニュータウンの社会史』（青弓社ライブラリー90、青弓社、2017年11月）
- 川村千鶴子『多文化都市・新宿の創造—ライフサイクルと生の保障』（慶應義塾大学出版会、2015年11月）
- 川村千鶴子編著『「移民国家日本」と多文化共生論—多文化都市・新宿の深層』（明石書店、2008年5月）
- 城所哲夫・瀬田史彦編著『ネオリベリズム都市と社会格差—インクルーシブな都市への転換をめざして』（東信堂、2021年3月）
- 岸見太一・高谷幸・稲葉奈々子『入管を問う—現代日本における移民の収容と抵抗』（人文書院、2023年6月）
- 工藤正子『越境の人類学—在日パキスタン人ムスリム移民の妻たち』（東京大学出版会、2008年4月）
- 久保倫子『東京大都市圏におけるハウジング研究—都心居住と郊外住宅地の衰退』（古今書院、2015年3月）
- 呉永鎬・坪田光平編著『マイノリティ支援の葛藤—分断と抑圧の社会的構造を問う』（明石書店、2022年11月）
- 是川夕編著『人口問題と移民—日本の人口・階層構造はどう変わるのか』（移民・ディアスポラ研究8、明石書店、2019年6月）
- 斯波義信『華僑』（岩波新書新赤版382、岩波書店、1995年3月）
- 清水睦美・「すたんどばいみー」編著『いちょう団地発！外国人の子どもたちの挑戦』（岩波書店、2009年9月）
- 清水睦美・児島明・角替弘規・額賀美紗子・三浦綾希子・坪田光平『日本社会の移民第二世代—エスニシティ間比較でとらえる「ニューカマー」の子どもたちの今』（世界人権問題叢書103、明石書店、2021年7月）
- 牲川波都季・有田佳代子・庵功雄・寺沢拓哉『日本語教育はどこへ向かうのか—移民時代の政策を動かすために』（くろしお出版、2019年6月）
- 関村オリエ『都市郊外のジェンダー地理学—空間の変容と住民の地域「参加」』（古今書院、2018年2月）
- 恒吉僚子・額賀美紗子編『新グローバル時代に挑む日本の教育—多文化社会を考える比較教育学の視座』（東京大学出版会、2021年5月）
- 坪谷美欧子編著『郊外団地における外国人住民の社会的統合—神奈川県X団地にみる「多文化共生」の現在』（学術研究出版、2020年12月）

6.参考文献

- 未読文献 ……
- 寺島実郎『大中華圏—ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る』（NHK出版、2012年12月）
- 寺島実郎監修、中庭光彦・松本祐一・荻野博司『多摩学への試み—多摩地域研究』（多摩大学出版会、2024年3月）
- 鳥井一平『国家と移民—外国人労働者と日本の未来』（集英社新書1025B、集英社、2020年6月）
- 永吉希久子編『日本の移民統合—全国調査から見る現況と障壁』（明石書店、2021年6月）
- 鍋倉聰『シンガポール「多人種主義」の社会学—団地社会のエスニシティ』（世界思想社、2011年3月）
- 西日本新聞社編『新移民時代—外国人労働者と共に生きる社会へ』（明石書店、2017年11月。増補版、2020年8月）
- 日本経済研究センター研究本部『中国減速が変えるアジア経済（予測期間：2023-2035年）—第九回アジア経済中期予測報告書』（日本経済研究センター、2023年12月）
- 日本住宅総合センター『地域が担う郊外住宅団地の活性化事例レポート』（日本住宅総合センター調査研究レポート第18323号、日本住宅総合センター、2020年9月）
- 春木育美・吉田美智子『移民大国化する韓国—労働・家族・ジェンダーの視点から』（明石書店、2022年11月）
- 樋口直人・稲葉奈々子編著『ニューカマーの世代交代—日本における移民2世の時代』（明石書店、2023年2月）
- 福永由佳編『顕在化する多言語社会日本—多言語状況の的確な把握と理解のために』（三元社、2020年12月）
- 松原正毅『遊牧の人類史—構造とその起源』（岩波書店、2021年8月）
- 三浦展編『ニュータウンに住み続ける』（「人間の居る場所」第3巻、而立書房、2022年11月）
- 箕曲在弘編著『新大久保に生きる人びとの生活史—多文化共生に向けた大学生による社会調査実習の軌跡』（明石書店、2022年3月）
- 宮崎里司・杉野俊子編著『グローバル化と言語政策—サステナブルな共生社会・言語教育の構築に向けて』（明石書店、2017年10月）
- 宮島喬・佐藤成基編『包摂・共生の政治か、排除の政治か—移民・難民と向き合うヨーロッパ』（明石書店、2019年8月）
- 武者小路公秀監修、浜邦彦・早尾貴紀編『ディアスポラと社会変容—アジア系・アフリカ系移住者と多文化共生の課題』（国際書院、2008年3月）
- 村田晶子『外国人労働者の循環労働と文化の仲介—「ブリッジ人材」と多文化共生』（明石書店、2020年2月）
- 室橋裕和『日本の異国—在日外国人の知られざる日常』（晶文社、2019年5月）
- 望月優大『ふたつの日本—「移民国家」の建前と現実』（講談社、2019年3月）

6.参考文献

• 未読文献 ……

- 森千香子『排除と抵抗の郊外—フランス「移民」集住地域の形成と変容』（東京大学出版会、2016年3月）
- 矢ヶ崎典隆『カリフォルニアの日系移民と灌漑フロンティア—サンホアキンバレーにおける農業地域と多民族社会の形成』（学文社、2022年3月）
- 安田浩一『団地と移民—課題最先端「空間」の闘い』（KADOKAWA、2019年3月）
- 安田峰俊『北関東「移民」アンダーグラウンド—ベトナム人不法滞在者たちの青春と犯罪』（文藝春秋、2023年2月）
- 山下清海『池袋チャイナタウン—都内最大の新華僑街の実像に迫る』（洋泉社、2010年11月）
- 山下清海『新・中華街—世界各地で〈華人社会〉は変貌する』（講談社選書メチエ632、講談社、2016年9月）
- 山田賢『移住民の秩序—清代四川地域社会史研究』（名古屋大学出版会、1995年1月）
- 山田賢『中国の秘密結社』（講談社選書メチエ139、講談社、1998年9月）
- 洋光台エリア会議編著、小林重敬監修『郊外住宅地の再生とエリアマネジメント—団地をタネにまちをつなぐ横浜・洋光台の実践』（学芸出版社、2022年4月）
- 吉川祐介『限界ニュータウン—荒廃する超郊外の分譲地』（太郎次郎社エディタス、2022年10月）
- 渡辺利夫編『華人経済ネットワーク—中国に向かうアジア・アジアに向かう中国』（実業之日本社、1994年12月）

us : Thank you for your time and attention.

VN : cảm ơn các bạn đã lắng nghe

TH : ŷ ę ç z Æ ē fġ ǫ fŷ fl ǫ fç ŷ fċ ǫ f

(khòp khun sǎmràp kaan ráp faj wan níi khráp)

SG：承蒙垂聽，衷心感謝

(Gǎn-xiè nín de guān-zhù)

(Chéng-méng chuí-tīng, zhōng-xīn gǎn-xiè)

(gyeong-cheong hae ju-syeo-seo gam-sa hab-ni-da)

МН : Анхаарал тавьсанд баярлалаа

RU : Благодарю вас за внимание

(Ankhaaral tand bayarlalaa)

(Blagodaryu vas za vnimaniye)

UA : Дякую вам за увагу

(D'yakuyu vam za uvagu)